

1. 調査報告概要表

全体を通して (特に良いと思われる点)	
山に囲まれた自然環境の中にあり、介護老人保健施設に併設された平屋で2棟並ぶグループホームである。ホームは、常に原点に立ち戻りながらケアが行えるよう職員が集まる申し送り時やミーティング時などの機会に話し合っておられ、新たにセンター方式の書式を用いて介護計画の作成に取り組まれている。利用者個々についてのさらなる把握から、職員は利用者に対しての気づきが増し意見交換も活発になされている。また、隣接の母体施設と連携を図り、研修や防災訓練なども行われている。日々の食事は、利用者個々の好みなどを聞かれたり、郷土料理などを採り入れ、作り方を利用者に聞きながら昔ながらの調理方法で作っておられた。また、調査訪問時には、切干大根作りや昔からの風習を大切に神棚を祀っておられた。今後、自治会への加入なども計画されており、地域の方達との交流を通じ利用者のさらなる生活の拡がりに向けた発展的な取り組みが期待される。	
分野	特記事項 (特に改善を要すると思われる点)
I	地域の方達が参加される連絡協議会へ出席し、利用者の外出時の見守りなどについての協力を得られるようお話をされているが、さらにホームの意義、役割などを広く知っていただけるような発展的な取り組みなども期待される。
II	ホームは、平屋で2棟が同じような造りになっており、時に外出から戻って来られた利用者が間違えるようなことがある。この機会に、利用者の視点に立ってホーム内で間違いやすいようなところがないかということ点を点検されてみてはどうだろうか。
III	買い物や散歩などに出かけておられるが、利用者の状態や職員支援体制などのこともあり、現在は外出の機会は少な目となっている。また、外出支援に偏りなども見られ始めている。利用者の状態によっては支援にむつかしさもあるだろうが、個々が外出を楽しむための工夫についてホーム全体で考えてみてほしい。利用者が入院した場合には、医療機関、ご家族、利用者、ホーム側での連携で早期に退院し、馴染みの場所へ戻ることができるよう話し合いがなされることが望まれる。
IV	現在の職員配置の中で、利用者の外出希望の受け入れやユニット同士の交流などについて人手や時間にむつかしさを感じておられるところもある。個々がホームでその人らしい生活を続けていけるようなローテーションについて法人も交え話し合うような機会とされてはどうだろうか。「来訪者を待つだけでなく、ホームから外へ出かける機会を持ちたい」とのホームの思いもあり、今後の地域の方との関係づくりへの取り組みが期待される。
V	隣接の介護保健施設と年2回、また、ホーム独自でも年1回、防災訓練が行なわれている。また、夜間時の訓練も行う予定となっている。そのような取り組みをご家族などにも伝えていけるような取り組みなども期待される。
その他	

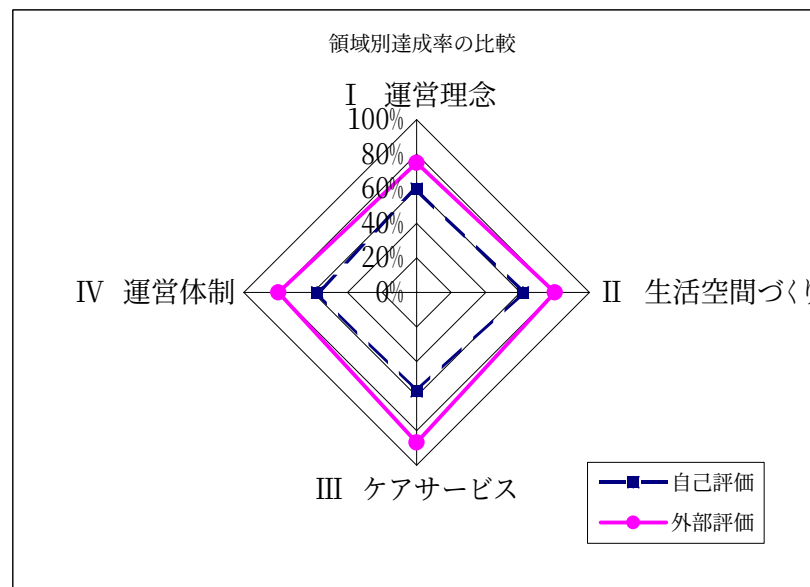
分野・領域		項目数	「できている」項目数
I 運営理念			
①	運営理念	4項目	3
II 生活空間づくり			
②	家庭的な生活環境づくり	4項目	4
③	心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	4
III ケアサービス			
④	ケアマネジメント	7項目	6
⑤	介護の基本の実行	8項目	8
⑥	日常生活行為の支援	10項目	10
⑦	生活支援	2項目	2
⑧	医療・健康支援	9項目	6
⑨	地域生活	1項目	0
⑩	家族との交流支援	1項目	1
IV 運営体制			
⑪	内部の運営体制	11項目	9
⑫	情報・相談・苦情	2項目	2
⑬	ホームと家族との交流	3項目	3
⑭	ホームと地域との交流	4項目	2
V その他			
⑮	火災・地震等の災害への対応	1項目	0

自己評価・外部評価の達成率の比較

分野・領域	自己評価結果	
	項目数	達成率
I 運営理念	5	60%
II 生活空間づくり	13	62%
III ケアサービス	77	57%
IV 運営体制	40	58%
合計	135	58%

分野・領域	外部評価結果	
	項目数	達成率
I 運営理念	4	75%
II 生活空間づくり	10	80%
III ケアサービス	38	87%
IV 運営体制	20	80%
合計	72	83%

自己評価作成日	(のぞみ)平成18年11月23日 (ささえ)平成18年11月20日
訪問調査日	平成18年12月8日
評価結果確定日	平成19年2月7日



レーダーチャート・表の見方

＊自己評価結果…自己評価作成は、各ユニット毎に行ないます。その結果、ホームで「できている」と回答した数を集計し一事業所での達成率として表しています。

＊外部評価結果…外部評価は、ユニットすべてを調査しますが、評価結果は、事業所単位で表しています。

＊自己評価・外部評価の達成率の比較…自己評価が外部評価の達成率に比べて低くなっている場合があります。これは事業者自ら提供しているサービスに対し「まだ十分でない」「もっと改善の余地があるのではないか」という質の向上に向けた取り組みの姿勢と捉えることができます。

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己					
	I 運営理念					
	1. 運営理念の明確化					
1	1	○			管理者は、ホームの意義や役割を常に考えながら、朝の申し送り時やミーティング時を利用して理念について話しをされ、職員間で共有しケアを行なえるよう努めておられる。	
2	3	○			ホームの運営理念を玄関に掲示され、利用者ご家族に説明されている。	
3	4	○			利用者の権利・義務を重要事項説明書に示し、入居時、利用者ご家族に説明され同意を得ておられる。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5		○		地域の方達が参加される連絡協議会へ出席し、利用者の外出時の見守りなどについての協力を得られるようお話をされているが、さらにホームの意義、役割などを広く知っていただけるような発展的な取り組みなども期待される。	さらに、今後、自治会に加入することも考えておられる。さらなる関係性からホームのことを地域に広く知っていただけるよう取り組みを工夫されてみてほしい。
	①運営理念 4項目中 計	3	1	0		
	II 生活空間づくり					
	1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○			ホーム全体がやわらか味のある色調となっており、玄関周りに花や木を植えられ家庭菜園もある。門や玄関を開放し、気軽に声をかけやすいような雰囲気作りをされている。	
6	7	○			共用空間には、テーブルやソファなどが設置され生け花やぬいぐるみ、クリスマスツリーなども飾られていた。	
7	8	○			居間には、畳の間やソファ、椅子があり、屋外にもベンチが設置されている。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
8	9	○利用者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			居室には、利用者が使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、個々に好みの装飾品なども飾られていた。	
②家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
		2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり					
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 利用者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			廊下、トイレ、浴室などに手すりが設置され、洗面所は、車椅子も対応できるようになっている。	さらに、段差のある場所の配慮については、ホーム自身でも気付かれていることであり、今後も、利用者の状態に合わせながら安全にできるだけ自立した生活が送れるよう工夫を重ねていかれることが期待される。
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、利用者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)		○		ホームは、平屋で2棟が同じような造りになっており、時に外出から戻って来られた利用者が間違えるようなことがある。	この機会に、利用者の視点に立ってホーム内で利用者が間違いやすいようなところがないかということを点検する機会とされてはどうか。
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 利用者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			窓が大きく、天窓からの自然光を採り入れ、カーテンなどを利用して採光を調節されている。また、職員の声のトーンなどにも利用者の状態などに合わせて配慮されている。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気の上よみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。		○		玄関や窓など戸を透かせるなど換気をされている。共用空間内で利用者がゆっくり過す場所にエアコンの風が直接当たるような場所があり、時に利用者から意見が出るようなこともある。	また、温湿度計など目安に温度調節をされているが、ホーム内で場所によっては寒暖の差なども見受けられる。この機会に利用者とも相談されながら、さらなる心地のよい環境作りへの配慮が望まれる。
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			日めくりカレンダーや大きなカレンダーが利用者のよく見えるところに置かれていた。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			今まで家庭で、台所仕事で不安で行えなかったような方も、職員と一緒に昼食の準備を楽しそうにしておられた。また、押し花でテーブル飾りを作り楽しまれている方もおられた。	
③心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			4	2	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			新たにセンター方式の書式を使用し介護計画の作成に取り組まれている。利用者個々の特徴・変化を採り入れた具体的な介護計画が作成されている。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			職員は、担当制で計画を作成されており、担当者を中心に職員全員で気づきや意見を出し合い計画を作成されている。	
17	22	○介護計画への利用者・家族等の意見の反映 介護計画を、利用者や家族等とも相談しながら作成している。		○		ご家族の来訪時や電話などで相談しながら介護計画を作成されているが、連絡のむつかしいようなご家族には、相談や報告が遅れるようなこともある。	ご家族の事情などもあるだろうが、ご家族の声の大切さを投げかけ、ご本人の生活とケアについて意見を出していただけるよう働きかけを工夫されていてほしい。
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			介護計画は、1ヵ月ごとにモニタリングし、3ヵ月ごとに見直しが行われている。また、利用者の状態変化時には、随時に見直しを行っている。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			利用者個々の特徴や日々の変化の記録により課題が明確になり、記録から介護計画につながる仕組みを作っている。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			口頭での申し送りや申し送りノート、日誌などを確認しサインをするなど重要な点はすべての職員に伝わる仕組みとなっている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			職員会議時には活発に意見交換がなされている。緊急案件がある場合には随時開催されている。	さらに、職員会議を定期的に行えるような取り組みはむつかしいだろうか。職員が一丸となってチームケアを行なうという点からも、職員が一同に集まるような機会を定期的に持つことも検討してみてもはどうだろうか。
④ケアマネジメント 7項目中 計			6	1	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援 (1) 介護の基本の実行					
22	27	○利用者一人ひとりの尊重 職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			職員は、利用者の状態や性格などを把握し、一人ひとりに合わせて食事の配膳、トイレ誘導時、声かけや見守りをされていた。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			職員は利用者に寄り添い、ゆったりやさしい雰囲気で見守らせておられた。	
24	30	○利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 利用者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			利用者との会話の中から好きなこと、やってみたいことなどを探り支援しておられる。調査訪問時、職員は、利用者に教えてもらいながら調理をされていた。	
25	32	○利用者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			調査訪問時には、利用者それぞれが思い思いに過ごされており、職員は、利用者に寄り添い個々のペースに合わせ声かけ、見守りを行っておられた。	
26	33	○利用者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			食物の切り方、調理の仕方や味付けなどについて利用者が意見をしやすいような質問の仕方を工夫されていた。昼食後の過ごし方についても個々で選べるような言葉かけをされていた。	
27	35	○一人で行えることへの配慮 自立支援を図るために、利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			調査訪問時、職員は、食事の準備、後片付けなどについて、声かけされたり一緒に行なうなどできることについては利用者ご自身で行なえるよう支援されていた。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			職員は、身体拘束について正しく認識され、言葉の拘束についても行なわないよう気を付けておられる。	
29	38	○鍵をかけない工夫 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族等に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			調査訪問時、玄関、窓など鍵をかけず開放されており、利用者が自由に出入りをされたり散歩に出かけている様子がうかがえた。	
⑤介護の基本の実行 8項目中 計			8	0	0		

項目番号 外部 自己	項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	(2) 日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43 ○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、利用者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			茶碗は、男女で大きさが違うものを使用されている。お碗は利用者が使い慣れたものを使用されており、入居時に、馴染みのものを持ち込んでもらえるよう利用者やご家族に説明されている。	
31	44 ○利用者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			利用者の身体、健康状態に合わせ、さざみ食やとろみを付けるなど食べやすいように工夫されている。また、郷土料理を採り入れたり彩りも考えた盛り付けをされていた。	
32	45 ○個別の栄養摂取状況の把握 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			水分をどのくらい摂取できたかということが分かりやすいようにペットボトルを使用されていた。また、食事摂取量についても記録されている。	
33	47 ○食事を楽しむことのできる支援 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員も利用者の側で同じものを食べながら、味付けや盛り付けなどについて楽しく話しかけておられた。また、さりげなく箸とともに食べやすいようにスプーンを置かれたり、食べこぼしをさりげなくサポートされていた。	
	2) 排泄					
34	48 ○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			日々の記録により排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行ない、利用者ができるだけトイレで排泄できるよう支援されている。排泄状態が改善された方もある。	
35	50 ○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			戸やカーテンを閉め対応されるなど、ご本人の羞恥心に配慮し支援がなされている。	
	3) 入浴					
36	53 ○利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 利用者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			入浴は利用者個々の希望に合わせ、24時間いつでも、また、毎日でも入れるようになっている。浴室は広めで、仲の良い利用者同士で入浴されることもある。	
	4) 整容					
37	56 ○理美容院の利用支援 利用者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			地域の馴染みの美容院でパーマやカットをされたり、ご家族と出かけられるようなこともある。ご本人の好みの髪型になるよう支援されている。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			男性はきれいに髭剃りをされていた。利用者が居室から出られる時には、身支度をされ洗面所で鏡を見ながらご自身で髪を直しておられる方もうかがえた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 利用者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない利用者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			記録により個々の睡眠の 패턴を把握し安眠できるよう支援をされている。眠れない方には温かい飲み物をお勧めしたり、ゆっくりお話をされるなど自然に入眠できるように取り組まれている。また、一人で寝るのが寂しいと言われる方などには、一時共用空間のソファで休んでもらうようなこともある。	
⑥日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3) 生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			定期的に発売される本を買いに行かれることを楽しみにされている方がいる。買い物時などの機会に利用者の状態に合わせてお金とかかわる機会を作っている。	
		(4) ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			切干大根作りや昔からの風習を大切に神棚を祀っておられた。利用者のやりたいことや楽しみごとを職員が把握し、声かけや見守りなどで個々の出番作りをされている。	
⑦生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5) 医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)		○		協力医療機関を確保しておられるが、今後さらにホームの実情を知っていただき、相談しながらご本人を支えていけるよう関係作りをすすめていかれてほしい。	さらに、日常的に利用者個々のことについて気軽に相談しながらケアを充実してかれることが期待される。
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。		○		利用者が入院した場合には、医療機関、ご家族、利用者、ホーム側での連携で早期に退院し、馴染みの場所へ戻ることができるよう話し合いがなされることが望まれる。	さらなる利用者の安心のためにもご本人やご家族などの意向を聴き取りながら、馴染みの場所に戻ることができるような支援の工夫を重ねていかれることが期待される。
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			利用者は月1回診察を受け、半年に1回、検診を受け医師の指導が得られるようになっている。	

項目番号	項 目		できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
		(6) 心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			自主的に廊下の手すりを使い歩行練習をされる方がおられる。また、家事や散歩などの日常生活の中で身体機能が維持できるよう取り組んでおられる。	
		(7) 利用者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、利用者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			職員は、利用者のトラブルの原因を把握され、さりげなく中に入ったり、回避できるように配慮されている。	
		(8) 健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			歯ブラシは居室の洗面所に置かれ、朝・夕歯磨きをされている。また義歯は洗浄剤を用いて清潔に保たれている。	
48	83	○服薬の支援 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			現在は、医師の指示のもと正しく服薬できるよう支援しておられるが、さらに、利用者が使用している薬についての作用や副作用、用量などについて、さらに知識を深めるような機会を作ってはどうか。	さらに、利用者が使用しておられる薬について薬局の方の協力を得たり、勉強会を行なうなどすべての職員で知識を深めるような取り組みなどもすすめてみてはどうか。
49	85	○緊急時の手当 利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			定期的に消防署の救命救急訓練を受けておられる。	さらに、いざという時に慌てず対応できるようすべての職員が継続的に行えるように計画を立ててみてはどうか。
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			感染症のマニュアルがあり、それに沿って実行されている。	
⑧医療・健康支援 9項目中 計			6	3	0		
		3. 利用者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 利用者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			買い物や散歩などに出かけておられるが、利用者の状態や職員支援体制などのこともあり、現在は外出の機会は少な目となっている。また、外出支援に偏りも見られ始めている。	利用者の状態によっては、職員の手など支援にむつかしさもあるだろうが、さらなる利用者の生活の拡がりのためにも、利用者個々が外出を楽しむための工夫についてホーム全体で考えてみてほしい。
⑨地域生活 1項目中 計			0	1	0		

項目番号	項 目		できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
		4. 利用者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			ご家族とは関係性が築かれており、時にホームに泊まるご家族などもある。	
◎家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。		○		法人代表者、管理者は質の向上について取り組まれているが、さらに協働しホームの質向上を目指していかれてほしい。	法人代表者、管理者はお互いの権限や責任を踏まえて話し合いを重ねていかれることが期待される。
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、利用者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			採用、運営方法については法人での決定となっており、入居等については管理者、職員で話し合われている。	さらに、日々ケアに取り組まれている現場の声を運営に反映できるような仕組み作りなども検討していかれてほしい。
55	101	○成年後見制度等の活用推進 利用（予定）者やその家族による、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を推進している（制度概要等の説明、申立手続に関する専門機関や相談窓口の紹介等）。また、専門機関等は認知症高齢者の特性やグループホームをよく知っており、利用者や家族等並びにホームを支えていく協力体制が確保されている。	○			成年後見制度を利用しておられる利用者があり、権利擁護事業の活用促進に向けて制度の説明や相談窓口なども紹介できる体制となっている。	
		2. 職員の確保・育成					
56	102	○利用者の状態に応じた職員の確保 利用者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。		○		現在の職員配置の中で、利用者の外出希望の受け入れやユニット同士の交流などについて人手や時間にむつかしさを感じておられるところもある。	利用者の状態などを踏まえ、個々がホームでその人らしい生活を続けていけるようなローテーションについて法人も交え話し合うような機会とされてはどうだろうか。
57	104	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			法人主催の研修会を受講されたり、外部の研修会にも参加され、その後、会議時に報告し、周知するようになっている。	
58	106	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			忘年会などで親睦を図ったり、主任が職員の話の聴き取るようにされている	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
59	108	○利用者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望等)	○			入居については、事前に話し合いがなされている。また、ご本人やご家族の希望により実際ホームで一緒に過ごしていただくなどホームに適している入居対象者であるか検討をされている。	
60	110	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、利用者や家族等に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			退居については、ご本人の状態なども踏まえ納得のいく支援に努めておられる。退居後もホームの行事に参加してくださるようなご家族もある。	
		4. 衛生・安全管理					
61	113	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			ホーム内の掃除などは、職員が気が付いた時に行い清潔保持されている。	
62	115	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬、洗剤など注意が必要なものについては利用者の目に触れないような場所で保管管理をされている。	
63	117	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			ホームで、両足以外、また手をつくと事故扱いと決めておられる。ヒヤリハット記録や事故報告書などにまとめ、話し合いがなされ再発防止やケアの改善に向けて取り組まれている。	
⑪内部の運営体制 11項目中 計			9	2	0		
		5. 情報の開示・提供					
64	119	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			調査訪問時には、明るく声をかけていただき、書類などの提供も積極的に行なわれた。	
		6. 相談・苦情への対応					
65	120	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、利用者及び家族等にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			ホームの苦情相談窓口について、窓口となる職員も明確にされ文書などにて説明をされている。また、玄関には意見箱を設置されていた。	
⑫情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号	項 目		できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	外部	自己					
66	123	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			ご家族の来訪時や、電話でのやり取りを重ねる中で関係性も深まり、気軽に意見を出してもらえるようになっている。また、介護計画書の相談や報告の機会などに意見や要望を出していたできるよう働きかけをされている。	
67	124	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、利用者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。〔「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等〕	○			定期的なホーム便りでホームの様子や利用者の様子を知らせておられ、ご家族も楽しみにされている。	
68	127	○利用者の金銭管理 利用者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族等と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			ホームでの預かり金は、ご家族と話し合い決められており、出納帳で管理しお金を使用した際には、レシートのコピーなどを送付し報告されている。	さらに、ご家族にとってお金のことは気になることでもあるので、定期的に報告するような方策なども検討されてみてはどうだろうか。
⑬ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
69	128	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。		○		現在は、特にホーム側から市町村や地域と積極的な関わりはもっていない。	1月に運営推進会議を開く予定となっている。また、4月からは、自治会に加入することも計画されており、地域とのさらなる連携から地域の認知症ケアの向上に向けても取り組まれていくことが期待される。
70	131	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		○		ホームの立地条件などのこともあり、地域の方がホームに立ち寄ってくれるようなことは少ない。	「来訪者を待つだけでなく、ホームから外へ出かける機会を持ちたい」との思いもあり、今後の地域の方との関係作りへの取り組みが期待される。
71	133	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			警察署へ利用者の外出時の見守りをお願いされるなど協力がいただけるように働きかけをされている。	さらに、利用者個々の地域の中での生活が拡げられるようホーム側からも積極的に働きかけていかれてほしい。利用者が地域資源を活用しながら生活ができるよう積極的な取り組みが期待される。
72	134	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○			地域の他のグループホーム同士の交流や研修、地域の方からの相談なども受け入れておられる。	
⑭ホームと地域との交流 4項目中 計			2	2	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		V その他					
73	144	○火災・地震等の災害への対応 利用者や施設の状況を考慮に入れ、夜間も念頭においた防災対策を講じている。(災害発生時の職員、家族、その他関係機関(母体法人等)との連絡体制の確保、防災応援協定など地域との連携体制の確保、これらの連絡・連携体制を踏まえた災害に対応するための手引書等の作成、避難・誘導等定期的な訓練の実施等)	○			隣接の介護保健施設と年2回、また、ホーム独自でも年1回、防災訓練が行なわれている。また、夜間時の訓練も行う予定となっている。災害時のマニュアルを作成し連絡体制なども明確にされている。	
㊥火災・地震等の災害への対応 1項目中 計			1	0	0		

＊(1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

(2)「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。